

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：11601

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530986

研究課題名(和文)人材活用型若者支援の構築に向けて デンマークと日本の比較研究

研究課題名(英文) Trying to Construct the Concept of Support System to Make Good Use of Manpower of the Young People - A Comparative Research between Denmark and Japan

研究代表者

谷 雅泰 (TANI, Masayasu)

福島大学・人間発達文化学類・教授

研究者番号：80261717

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究で明らかにしたことは主に次の2点である。

第1に、デンマークの職業教育が人材活用を眼目として行われている点に着目し、アスペルガー症候群の生徒のみにIT教育を施す機関であるAspITを調査した。実際にIT技術者として就業することを重視して教育が行われていることがわかった。

第2にデンマークで2014年8月に行われた国民学校改革が、2015年8月に予定されている職業教育改革(VETプログラムの改革)の一環として行われていることを明らかにするとともにそれぞれの内容について明らかにした。VETプログラムの質向上のために国民学校の質向上が謳われるなど両者が密接に関連していることが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：We found these 2 things: Primarily, we focused on that Danish vocational education makes much of making best of the manpower, and then we made investigations in AspIT where IT education only for Asperger-Syndrome young people is given. There we found that this education is aiming for the employment of the students as IT engineers.

Secondly, we showed that the Danish reform for folkeskole(obligational education school) given in Aug.2014, is included in the reform of vocational education( reform of VET program) which is to be given in Aug. 2015, and we clarified the contents of the folkeskole reform. We found folkeskole reform is closely related to VET program reform, for example, the improvement of the quality of folkeskole is considered to be necessary to improve the quality of VET program.

研究分野：教育学

キーワード：職業教育 教育改革 デンマーク

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、2008年度から2010年度までに同じ研究代表者で行った「若者のキャリアガイダンスシステムの構築に向けて-デンマーク・日本の比較研究-」(科研費基盤研究(C))の成果を受けて、引き続き学校と社会の接続に関するデンマークと日本の比較調査を行ったものである。

その主な内容としては、次の3点が挙げられる。

### (1) AspIT の調査研究

AspITとは、アスペルガー症候群(自閉症スペクトラム)の若者に限定し、その特性を活かしてIT教育を行う機関である。すでに、2010年度までの研究のなかで、デンマークでそれが創始されて世界的な注目も集め、国内でも学校数が増えていることは把握し、コペンハーゲンにあるコースを訪問していたが、最初の学校であるバイレのAspITの関係者を訪問して、その発足の経緯や目的を調査することにした。その結果、後述するようにAspITをめぐる考え方の違いが関係者のなかで顕在化していることが明らかとなった。

### (2) 教育改革の調査

デンマークでは学校と社会との円滑な接続をめざし、教育改革を行っている最中である。その背景には、後期中等教育から大量のドロップアウトが生じていたというEU各国に共通する問題があった。

これに対してデンマークではUU(若者支援センター)を発足させて就業や就学のきめ細かな支援を行ってきた。また、後期中等教育の改革も行い、後期中等教育のコースに新しくEUXという種類の学校を設けて、職業と座学を両方とも学べるようにした。本研究においても初年度に、EUXのコースを訪問した。そのなかで、デンマークが次の教育改革を行っていることにも気づかされることになった。

そのひとつは、国民学校改革であり、2014年8月から新しい国民学校法が施行されることとなった。その内容は後述するが、授業増による学力保障がその要点である。しかしそれは、日本とは違い、職業教育改革と結びつけられていることが特徴ではないかと思われる。2015年度8月に実施が予定されている職業教育改革がそのゴールとなると考えられている。本研究ではそのことも背景として視野に入れて進めることになった。

### (3) ノルウェーとの比較

デンマークと日本の比較研究が本研究の眼目であるが、北欧諸国でのデンマークの位置を測るためにも、北欧諸国の他の国との比較が必要ではないかと考えた。北欧諸国は連携して政策を進めているが、それでも当然ながら異なる部分があると考えられる。本研究

ではノルウェーについてもデンマークとの比較の限りで研究することとし、教育省の外郭団体で若者支援について聞き取り調査を行うなどした。

同時に、OECD本部で若者支援の担当者から聞き取り調査も行った。

## 2. 研究の目的

PISAの成績が問題とされ、学力向上が問題となっているという点ではデンマークも日本も共通するところであるが、その目的がちがうのではないかというのが研究グループの仮説であった。デンマークでは、職業に円滑に移行していける学力をつけることが目的であるのではないか、その背景には人材を活用することが社会全体の利益となるという考え方があるのではないかと考えた。

その典型的なあらわれがAspITである。日本では福祉の対象としか見られないアスペルガー症候群の生徒を、単に障がい者の社会参加という側面からだけではなく、実際にその特徴を活かした形で社会に貢献してもらうのだ、という目的でIT教育を施そうとしていた。

本研究は、職業教育改革とそれに連なる国民学校改革をフォローするとともに、AspITの教育理念や教育方法を明らかにすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

(1) 現地を訪問しての調査を行うこととし、期間中に3度の調査を行った(いずれも9月)。

### 2012年度

- ・TEC(技術学校)のAspITコースとEUX視察
- ・HKIへの訪問とレクチャー
- ・UU(若者支援センター)でのレクチャー  
(以上、コペンハーゲン)
- ・OECD本部にてSimon Field氏らによるレクチャー(パリ)

### 2013年度

- ・前年度に引き続き、TECのAspITコースとHKIにて聞き取り調査。卒業生の進路について調べるために、就職先のIT企業を訪問、本人と経営者に聞き取り調査。
- ・ブロンビューストランド国民学校にて教育改革に関する聞き取り調査。  
(以上、コペンハーゲン)
- ・AspIT創始者へのインタビュー調査、及び学校訪問。卒業生の進路について調べるために、就職先の国民学校を訪問、本人と同僚に聞き取り調査。  
(以上、デンマーク第2の都市オーフス)

- ・同じ北欧の若者支援について比較検討するために、ノルウェー教育省の生涯学習に関する外郭団体であるVOXの担当者に若者支援について聞き取り調査など。

- ・ノルウェー国立音楽大学のトム・ネス氏に音楽療法についてインタビュー、ゼミへ出席。

(以上、ノルウェー・オスロ)

2014年度

- ・コペンハーゲンに新しく設立された AspIT の訪問

- ・ブロンビューストランドレ国民学校
- ・ロドオア区の自然体験放課後施設訪問
- ・アルバーツルンド区の10年生クラス学校
- ・UUでの聞き取り調査

(以上、コペンハーゲン)

- ・ノルウェー・ベルゲン大学のスティーゲ教授を訪問、ミュージックセラピーについて調査

(以上、ノルウェー・ベルゲン)

## (2) 文献調査

デンマーク教育省の web 上のパンフレットを翻訳した。

a. The Danish Government 名義によるパンフレット

How to make a good school even better - an improvement of the standards in the Danish public school

b. デンマーク政府(社会民主党、急進自由党、社会主義人民党)とヴェンスタ(デンマーク自由党)、デンマーク国民党との間の、デンマークの国民学校(初等および前期中等教育)に関する合意 2013年7月7日

c. デンマーク教育省によるパンフレット

Improving the Public School  
overview of reform of standards in the Danish public school(primary and lower Secondary education)

d. 同上

Improving Vocational Education and Training -overview of reform of the Danish vocational education system"

また、2014年に改正された国民学校法の新法と旧法の比較を行った。これについては後述するような改正のポイントについてまとめたが、逐条的な比較については現在も進行中である。

## 4. 研究成果

2012年度の訪問調査から

EUX は職業と座学をより密接に関連づけた後期中等教育のコースである。

TECにあるAspITは、IT教育については自前で行いながら、社会生活上の訓練は週1回、HKIという施設で行っていた。HKI(The Hans Knudsen Institute)は1872年に設立された社会福祉に関する機関である。

2013年度の訪問調査から

TECでの聞き取り調査でデンマークにおけ

る AspIT の始まりがバイレの学校にあることがわかっていたので、同校と連絡をとり、創始者へのインタビュー調査を行うこととした。ただし、先方の薦めもあり、バイレではなく同じ系列のオーフスにある学校でインタビュー調査などを行った。その調査結果をまとめたものが、下記の雑誌論文である。

インタビューのなかで、これまで研究グループがコンタクトをとってきた TEC の学校が、同グループからは排除されたこと、グループとしては新しい学校をコペンハーゲンに立ち上げる構想を持っていることが語られた。この対立の背景には、就業と福祉をめぐる考え方の違いがあるように思われる。オーフスでは、一人前の IT 技術者として送り出すことに対する非常に強いこだわりを感じることができた。その立場からすると、コペンハーゲンのコースは就業に対する考えが甘いということになったようである。一方、コペンハーゲンの学校は STU という補助金を受けている生徒は、必要とされていれば受け入れるという立場のようで、実際、障がいの程度がより重い生徒が学んでいるようであり、一人前の技術者としての就職のみを追究することには無理があると考えられる。

2014年の訪問調査から

UUの所長から、職業教育改革と国民学校改革の関連についてインタビュー調査を行った。このことについては文献調査から得られた内容を含めて次の項目で述べることにする。

オーフスの学校がコペンハーゲンで新しく立ち上げた AspIT の見学も行ったが、立ち上がったばかりの学校で生徒も少なく、今後の継続的な調査が必要であると感じた。

国民学校改革の現状を見るために、前年に引き続いてブロンビュ国民学校を訪問した。また、授業時間が長くなるということは、放課後の時間が少なくなるということになるので、これまでのデンマークの教育を特徴付けていた放課後施設が今後どのようなのかを一施設に行き確かめた。国民学校のカリキュラムに施設の活動を入れてもらえるように国民学校に対して働きかけているということであった。

文献調査から

近年のデンマークの教育改革についてまとめると下記のようなになる。

<デンマークの教育改革>

\*21世紀に入ったの改革

2003/8 国民学校教育課程改訂

2004/8 若者支援センター創設

2004/8 教員養成カリ改訂

2006/8 試験制度の導入

\*直近の改革

2014/1 若者の援助金の制限

(教育・就職への志向のある者のみ)

2014/8 国民学校改革  
2014/8 ガイダンス制度改革  
2015/8 職業教育改革

2014 年の国民学校改革はこのなかに位置づけられ、その主な内容は次の通りである(この点について詳しくは下記雑誌論文 参照)。

<2014/8 実施の教育改革>

\* 授業数増

0~3 学年 週 30 時間 午後 2 時まで、1,2 年は約 4 割増

4~6 学年 週 33 時間 午後 2 時半まで、約 3 割増

7~9 学年 週 35 時間 午後 3 時まで、2~3 割増

\* デンマーク語と数学の時間数増(4-9 学年)

\* 外国語を早期から(英語は 1 学年から、第 2 外国語は 5 学年から、7 学年に選択科目として第 3 外国語)

\* 家庭学習支援

\* 身体活動

その他 教員の資質向上、開かれた学校など

これらは、2015 年 8 月に予定されている職業教育改革と関連している。

それは VET プログラムの改革である。VET とは、以下のようなものである。

・実践的な教育

・国民学校を卒業後直ちに始まるプログラム

・職業に直接つなげる、あるいは高等教育へのステップにも

・最初に基礎コースがあり、試験がある。次にメインコースがあり座学と実践的訓練が交互にある。プログラムの理論的部分は職業 college(または商業 college)、技術 college、成人職業訓練センター、農業 college で行われる。

デンマークでは以下のような領域の専門化された、106 の VET が提供されている。

・自動車、飛行機、他の輸送手段・建築

・Body and style・メディア・商業

・生産と発展・パワー、経営、IT

・健康、ケア、保育・輸送、兵站

2014 年 2 月段階で 82689 人の学生がメインコースに在学し、うち 74456 人が企業と訓練契約を結んでいて、6881 人が学校ベースの実践的トレーニングを行っている。

VET プログラムは独立行政機関(職業 college)が提供していて、そこはタクシメーター制の資金を得ている。

プログラムの改革を行うために、4 つの目標が決められた。その 1 と 2 だけ挙げておくと次のようなものであり、VET プログラムに義務教育後、すぐに進学し、しかも修了者が増えることを意図している。

目標 1. より多くの生徒が第 9,10 学年の直後

に VET を開始することを選択しなければならない。

結果目標 1.1 少なくとも 25% が第 9,10 学年の直後に VET を選択しなければならない。この割合は 2025 年までには少なくとも 30% に増加しなければならない。

目標 2. より多くの人々が VET を修了しなければならない。

結果目標 2.1 修了率は 2012 年の 52% から 2020 年までに少なくとも 60%、2025 年までに少なくとも 67% に改善されなければならない。

そのために、国民学校での成績が思わしくないものはプログラムに入学できない仕組みとされた。国民学校の質を向上させるという国民学校改革の目的とここで結びつくのである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

青木真理, 谷雅泰, 杉田政夫 デンマークにおけるアスペルガー症候群の若者を対象とした IT 教育のコースについて - AspIT と HKI への訪問調査 -, 『福島大学地域創造』, 査読有, 第 25 巻第 1 号 pp19 - 32 2013 年 9 月

谷雅泰, 中道左派政権によるデンマークの教育改革 - よりよい国民学校をめざす方策の提案 - 『福島大学人間発達文化学類論集』 第 19 号(教育・心理部門) 査読無 pp.27-40 2014 年 6 月

杉田政夫, 青木真理, 伊藤孝子, トム・ネス の音楽療法に関する一考察 ノルウェー国立音楽大学における授業観察を中心に, 『福島大学総合教育研究センター紀要』, 査読有, 第 17 号, pp29-38, 2014 年 7 月。

青木真理・杉田政夫・谷雅泰, デンマークの AspIT(アスペルガー症候群の若者を対象にした IT 教育のコース)について - AspIT 創始者へのインタビューを中心に -, 『福島大学地域創造』第 26 巻第 1 号 査読有 pp3-14 2014 年 9 月

[学会発表](計 0 件)

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

谷 雅泰 (TANI, Masayasu)  
福島大学・人間発達文化学類・教授  
研究者番号：80261717

##### (2) 研究分担者

青木 真理 (AOKI, Mari)  
福島大学・総合教育研究センター・教授  
研究者番号：50263877

杉田 政夫 (SUGITA, Masao)  
福島大学・人間発達文化学類・准教授  
研究者番号：70320934

三浦 浩喜 (MIURA, Hiroki)  
福島大学・人間発達文化学類・教授  
研究者番号：90282251  
(2012年度のみ)